

ホタル観察のマナー

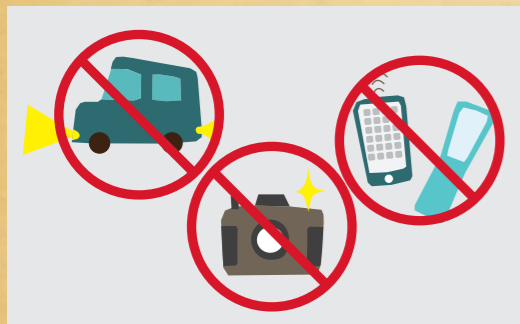
毎年、その場所でホタルを楽しむために

その1 ホタルは持ち帰らない



ホタルの成虫の寿命は長くても7日程度で、その短い期間に光を発しながら、オスとメスが相手を探しています。ゲンジボタルのメスは、1匹あたり500~1,000個の卵を産み付けますが、成虫になるのはごくわずかで、ホタルを持ち帰ってしまうと来年の発生数に影響を与えてしまうので、ホタルを持ち帰るのはやめましょう。

その2 懐中電灯、携帯電話、車などの光は消す



ホタルのオスとメスは光でコミュニケーションをとっているため、他の強い光を嫌います。カメラのフラッシュ、車のヘッドライト、ハザードランプなどは、観察ができなくなるため使用せず、車はできるだけ観察場所から離れた場所に駐車しましょう。暗さに目を慣らしながら徒歩で向かうようにし、懐中電灯や携帯電話のライトや液晶画面の使用も控えましょう。

その3 地域の迷惑にならないようにする



地域住民の人々がホタルの生息・繁殖できる環境を守っていることで、ホタルを見ることが出来ます。また、三浦半島におけるホタルの発生地は多くは、住宅地の近くにあることが多いので、ホタルを鑑賞する際は、大きな声や音、ゴミのポイ捨て、違法駐車など地域住民の迷惑になるようなことは絶対にやめましょう。

ホタルをもっと楽しむためのポイント4つ

- 1 日の入り前にホタルの観察場所に行く(目が慣れて懐中電灯が必要なくなる)
- 2 急激な気温の変化や虫さされに備えて長袖の上着を用意すると安心
- 3 草での擦り傷、切り傷、虫刺されを防ぐために長ズボンがおススメ
- 4 視界の悪い中歩くので、足元はスニーカーや運動靴、もしくは長靴などがおススメ



観察会情報

横須賀市の観察会情報は、毎年、広報よこすか5月号及び各ホームページ等に掲載

横須賀市

長井海の手公園・ソレイユの丘

ホタルの棲むせせらぎでは、ホタルや生物のための環境整備を行っています。観察会を開催するとともに、たくさんの方にホタルを楽しんでもらえるよう自由観賞デー[※]を設けています。
※ 詳細は広報よこすか5月号及びHP等をご覧ください。



所在地: 横須賀市長井4丁目地内 駐車場あり
アクセス: 京急線「三崎口」駅より京急バス「ソレイユの丘」行で約15分 終点下車/または「荒崎」行にて約20分、「漆山」バス停下車
主催: 長井海の手公園パートナーズ(指定管理者)
[HP] <https://www.seibu-la.co.jp/soleil/> 参加費: 無料
申込み: 【観察会】募集期間に往復はがきで事前申し込み、応募抽選【自由観賞デー】不要
*観察会および観賞デー以外、閉園後の公園内への立ち入りはできません。
*解散予定時刻にはバスの運行はございません。ご了承ください。

横須賀市

馬堀自然教育園

園内では、三浦半島の水辺や山林の生き物を保全しています。初夏には水辺をアサヒナカワトンボが飛び交い、毎年6月にホタルの観察会[※]を開催しています。
※ 詳細は広報よこすか5月号及びHP等をご覧ください。



所在地: 横須賀市馬堀4-10-3 駐車場なし
アクセス: 京急線「馬堀海岸」駅から徒歩15分、JR横須賀線「横須賀」駅から京急バス「観音崎」行きで「馬堀中学」下車、徒歩5分
主催: 横須賀市自然・人文博物館
[HP] <http://www.museum.yokosuka.kanagawa.jp/> 参加費: 50円
対象: 小学生以上(小学生は保護者同伴)
申込み: 往復はがきにて横須賀市自然・人文博物館へ事前申し込み、応募抽選

横須賀市

西逸見ほたるの里

県立塚山公園の麓に位置し、地域活動により西谷戸川源流部の面影を残しています。詳細は市HPをご確認いただくか、逸見コミュニティセンターへお問合せください。

所在地: 横須賀市西逸見町3-31 駐車場なし
アクセス: 京急線「逸見」駅より徒歩約20分、JR横須賀駅より徒歩約25分、駐車場なし
主催: 逸見コミュニティセンター 参加費: 50円(保険料として)
対象: 小学生以下は保護者同伴(未就学児は子ども1人につき保護者1人の同伴)
申込み: 締め切り日までに、往復はがき(必要事項を記入)、ファクス、Eメール、逸見コミュニティセンターへ来館し直接申込み(返信用はがき持参)のいずれか

三浦市

小網代の森

森の中央にある谷に沿って流れる浦の川の集水域として、森林、湿地、干潟及び海までが連続して残されています。かつては、大規模な開発計画により失われそうになっていた小網代の自然環境は、NPO法人小網代野外活動調整会議(岸由二代表・慶応義塾大学名誉教授)と神奈川県等との協働により守られ、自然再生や維持管理を継続してきたことで、ホタルを含む多くの生きものが戻ってきました。
平成30年度の夜間開放日は、5/24(木)~6/3(日)です。



所在地: 三浦市三崎町小網代 駐車場なし
アクセス: 京急線「三崎口」駅からバス1番のりば「油壺」行き、または2番のりば「三崎東岡」「三崎港」方面行きバスに乗り、「引橋」バス停下車徒歩約5分、もしくは「三崎口」駅より徒歩約30分
お問合せ: 神奈川県 [HP] <http://ktm.or.jp/index.html>
NPO法人小網代野外活動調整会議 [HP] <http://koajiro.org/>

監修・写真提供: 大場信義氏(大場堂研究所所長)
指導・写真提供: 内船俊樹氏(横須賀市自然・人文博物館学芸員)
情報提供・協力: 神奈川県、三浦半島の自然環境の保全・活用に関する連絡会議(横須賀市、葉山町、鎌倉市、逗子市、三浦市)

お問合せ

横須賀市環境政策部自然環境共生課
〒238-8550 横須賀市小川町11番地
TEL: 046-822-8331 FAX: 046-821-1523

横須賀市 ホタル 検索

三浦半島のホタル

ホタル観察のマナーガイド

- ・三浦半島でみられるホタル
- ・ホタルの生態
- ・教えてホタル博士
- ・「三浦半島・横須賀ってどんな場所?」
- ・ホタルの観察マナー
- ・観察会情報

三浦半島でみられるホタル

初夏の風物詩、光りながら夜空を飛び回るホタル。全国的にもホタルのみられる場所は限られていますが、三浦半島は、首都近郊ながら各所でホタルが見られます。



きれいな流れのある水辺にいる ゲンジボタル

【特徴】国内最大のホタル。前胸に十文字の黒い紋が特徴。幼虫は、カワニナ（巻き貝）などを食べて育つ。【分布】本州、四国、九州【成虫体長】メス約20mm、オス約15mm

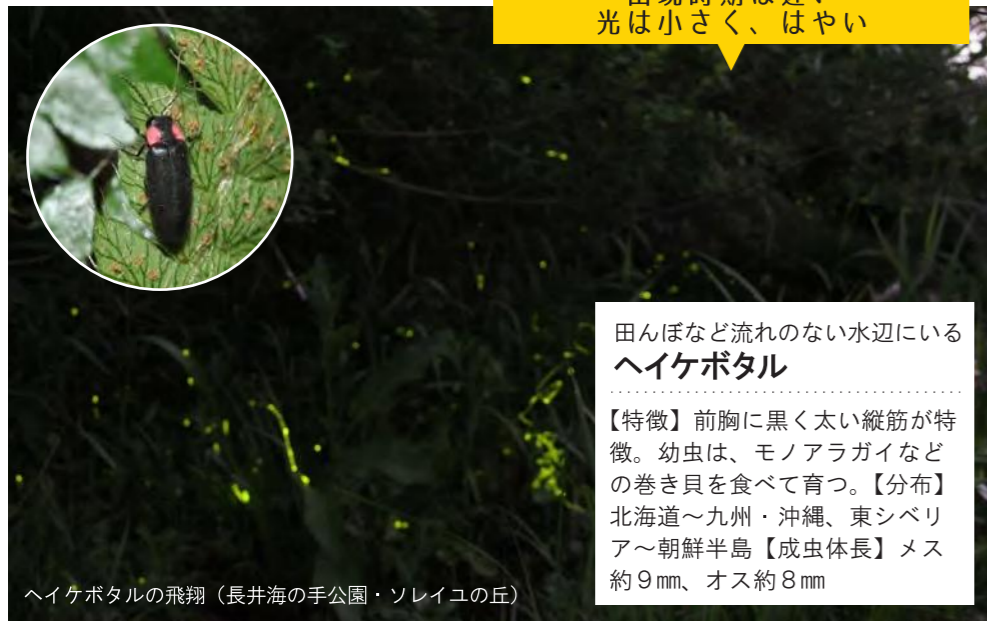
ゲンジボタルの飛翔（馬堀自然教育園）

出現時期は早い
光は大きく、ゆっくり

三浦半島で確認されているホタルの仲間は7種類
夜にオスとメスが強く光るのは
ゲンジボタルとヘイケボタルの2種類

ホタルは世界に約2,000種類、日本に約50種類、三浦半島では7種類が確認されています。そのうち成虫が発光するのは、ゲンジボタル、ヘイケボタル、クロマドボタルの3種です。よく知られているゲンジボタルとヘイケボタルは、幼虫期を水中で過ごす水生ホタルで、世界的に見ても珍しい生活環のホタルです。

出現時期は遅い
光は小さく、はやい



田んぼなど流れのない水辺にいる ヘイケボタル

【特徴】前胸に黒く太い縦筋が特徴。幼虫は、モノアラガイなどの巻き貝を食べて育つ。【分布】北海道～九州・沖縄、東シベリア～朝鮮半島【成虫体長】メス約9mm、オス約8mm

ヘイケボタルの飛翔（長井海の手公園・ソレイユの丘）

その他の三浦半島でみられるホタル



クロマドボタル オバボタル ムネクリイロボタル カタアカホタルモドキ スジグロベニボタル

ホタルの生態

ゲンジボタル、ヘイケボタルはどのような場所で、どのように一生を過ごしているのでしょうか。

Q いつ頃見られる？

A **ゲンジボタルは5月下旬～6月下旬**
ヘイケボタルは6月中旬～7月中旬

ホタルの出現時期は、桜前線と同じように南から北上していきます。しかし、地域により、飛び始める時期、発生期間、ピークはそれぞれで、晩冬～春の気温が高いほど羽化が早まり、その年の気象条件にも大きく左右されます。ゲンジボタルとヘイケボタルが生息する水辺では、両方を同時に見られる時期の観察も魅力です。

Q 何時くらいに光るの？

A **日没とともに飛び始め、ピークは夜8時ごろまで**

ゲンジボタルは日没後、夜7時頃から、ヘイケボタルは7時半ごろから飛び始めます。どちらのホタルも、最も活発に光る時間帯は夜8時ごろまでです。

Q ホタルはなぜ光る？

A **光はオスとメスが会うための信号**

ホタルはお尻を光らせることで、仲間に自分の居場所を知らせるなどのコミュニケーションをとっています。カップルになると様々な発光シグナルを出し、光で会話をして確認した上で交尾をします。

Q 地域によって光り方が違う？

A **東日本のゲンジボタルはオスが集団で飛んでいる時、ゆっくり明滅、軌跡が長い**

ゲンジボタルのオスがメスを探して一斉に点滅し、同調した時の光り方は、東日本と西日本で発光パターンが異なります。三浦半島を含む東日本型は、西日本型に比べて発光間隔が長く、ゆっくり明滅します。このため、写真では飛翔軌跡が長く描かれます。

ホタルは
地域で守る！

発光パターンが同じゲンジボタルでも、遺伝子レベルでは地域ごとに固有の遺伝子構成をもっていることがわかっています。三浦半島のホタルも谷戸ごとに命をつなぎ、地域の人々が見守ってきたホタルです。地域外への持ち出しはやめましょう。

Q よく光る条件は？

A **風がなく、蒸し暑い夜**
雨が降り出しそうなくもり空

光るホタルをたくさん見られる条件は、「風がない」、「気温が20度以上で蒸し暑い」、「くもっていて月明かりがない」などがあります。降雨、強風、気温の低い日は、ホタルがあまり飛びません。当日の気象条件を調べてから観察に出かけるとういでしょう。

Q どんな場所にいるの？

A **ゲンジボタルは流れのある水路**
ヘイケボタルは田んぼや池など

ゲンジボタルの幼虫は水路や河川などにおり、ヘイケボタルの幼虫は池や田んぼなど流れが弱い水辺にいます。それぞれエサとなる巻貝が豊富にいる水辺環境が整っていることが生息の条件です。

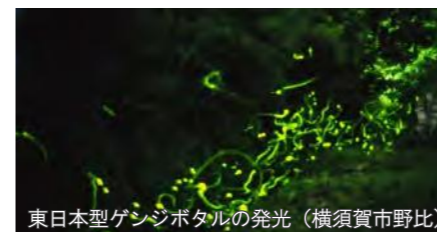
Q ホタルのどの部分が光る？

A **お尻付近にある発光器が光る**

ホタルの腹側のお尻に近い部分に発光器と呼ばれるものがあり、光を放出します。



ゲンジボタルの腹面 ホタルの発光器



東日本型ゲンジボタルの発光（横須賀市野比）



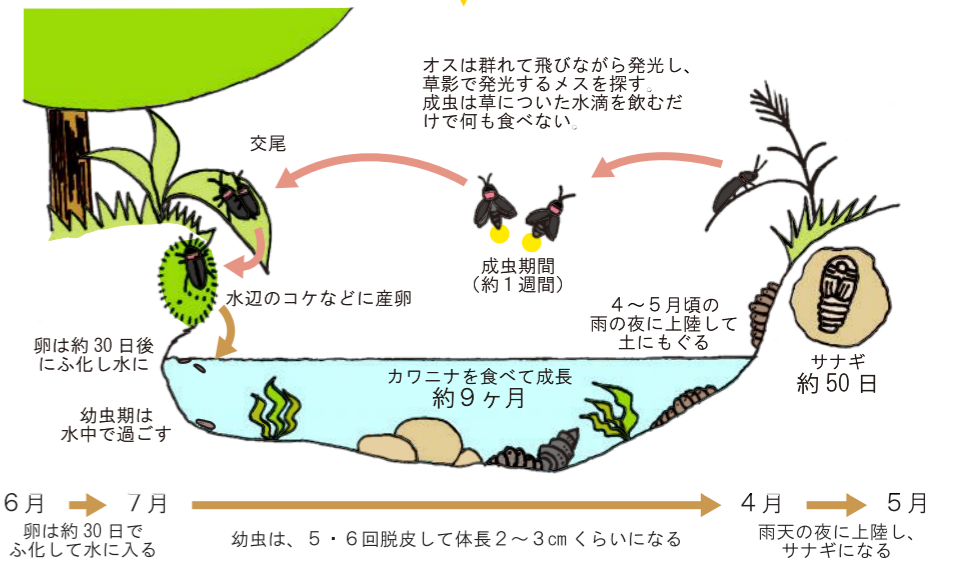
西日本型ゲンジボタルの発光（熊本県菊池市）

ホタルの一生

ホタルは成長に応じてすみ場所を変えます

ゲンジボタルとヘイケボタルは、水辺のコケなどに産卵し、卵の孵化後、幼虫は水中へ移動します。その後、さなぎは土の中、成虫は地上で暮らします。ホタルの成長には、水辺にコケなどが多く繁茂していること、さなぎの時期を土の中で迎えるために護岸がコンクリートなどで固められていないことなど、いくつかの条件があり、水辺だけでなくその周辺環境も重要です。また、ホタルの見られる環境では、エサとなる巻貝など多くの生き物のすみかになっているため、生物多様性が確保されていると言えます。

ホタルが光り、飛び交うまでには水辺とその周辺環境が大切



教えて！ホタル博士

三浦半島・横須賀ってどんな場所？

三浦半島は、三方海で囲まれ、黒潮の影響を受けているため年間として温暖な地域です。全体的に低い丘陵で、地形的にはかなり複雑であり、三浦半島特有の谷戸地形に象徴されます。谷戸の奥地には小さな水源が残り、小規模な田んぼや水辺が存在しており、都市近郊の中にありながら、奇跡的に今もホタルをはじめとした水辺の生きものたちが身近に生息しているところがあります。このように昔ながらの環境を残した背景には、横須賀市が歴史的に軍港都市として発展したものの、谷戸奥地へのインフラ整備に多くの制約があったことがあげられます。一方、陸路は谷を貫くようにトンネルによって結ばれており、その数は全国でも際立って多いです。そのため、狭いながらも三浦半島にはホタル生息地が徒歩圏に隣接して存在している特徴があります。

ではホタルの里づくり活動が進められ、小・中学校と地域が連携した活動に拡がり、毎年ホタルが飛ぶようになりました。長井海の手公園・ソレイユの丘では、公園内でホタルが自然繁殖し、6月上旬～中旬、毎年大変多くの市民が訪れる中で観察会が実施されています。横須賀市の生息地は市街地のなかで、小規模な水辺からの発生地がほとんどのために、大勢の方々が一度に観察できません。このパンフレットでは、比較的対応可能なところのみを紹介しました。ホタルがすむような環境を地域の宝として見守り、次代に継承する一助になることを願っています。

三浦半島全体としては、逗子市や三浦市・小網代の森において観察会が開催されています。ホタルがいるところは様々な生き物に触れ合え、人が住む上でも安定した優れた環境であり、生物多様性に富んだところでもあります。環境保全、再生活動を通して全国のモデルとなるように行政・市民・学校が連携して、これからもモニタリングすることを目標としています。是非、子どもたちとともに観察しましょう。

横須賀市では、環境シンボルとして、全国的に減少しているホタルの保護再生を先駆けて取り組んできました。

横須賀市自然・人文博物館による発光生物の調査・研究・展示活動などは他に類をみないこともあり、市内では市民協働によるホタルの復活活動が盛んです。博物館付属馬堀自然教育園では半世紀にわたりホタルの保全・再生整備を進めてきた結果、現在ではゲンジボタルやヘイケボタルが毎年自然発生しています。隣接する馬堀中学校

大場 信義氏
大場堂研究所 所長
横須賀市自然・人文博物館 元学芸員

